

# 業績のご報告

## Performance Report

### 当期(2012年度)の業績概要

当期における内外経済は、欧州債務問題の出口が見えないまま景気低迷が長期化しているものの、国内景気は円安効果もあり、ようやく緩やかな回復の兆しが見え始めてきました。

この環境下、当期の売上高は、2,977億円となりました。セグメント別内訳は、コンシューマが2,278億円、システムが417億円、その他が281億円となりました。

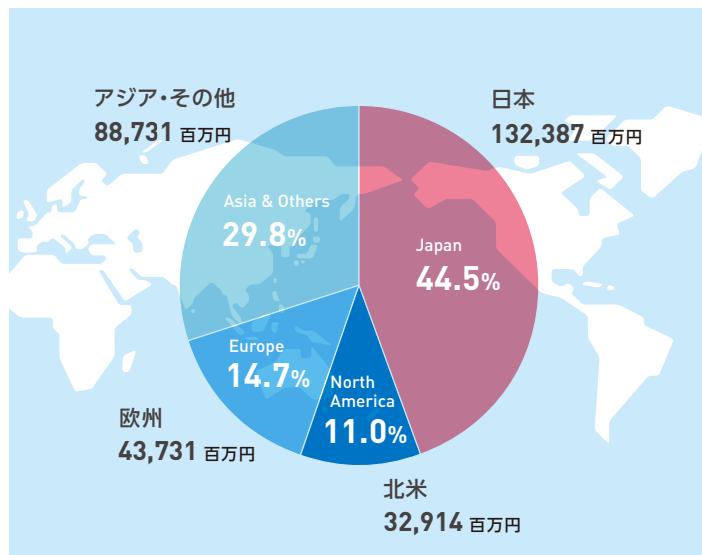
時計は、世界的なブランド戦略の強化により、「G-SHOCK」や「PRO TREK」といったブランドが、北米やアジアなどの海外市場を中心に好調に推移し増収となりました。また、Bluetooth®でスマートフォンと連携できる「G-SHOCK」を発売し、新たなマーケットを開拓しました。女性向けブランドでは「Baby-G」や「SHEEN」のラインアップを拡充し、順調に推移しました。電子辞書は「エクスワード」シリーズの販売が学生向けモデルを中心に堅調に推移し、引き続き国内で圧倒的なナンバーワンシェアを維持しました。

損益につきましては、コンシューマは時計や電子辞書が引き続き高収益性を維持した結果、営業利益は265億円、営業利益率は11.7%となりました。システムは収益性の改善により、7億円の営業損失、その他は2億円の営業損失となりました。この結果、調整後の連結合計として営業利益は200億円、経常利益は197億円、当期純利益は118億円となりました。

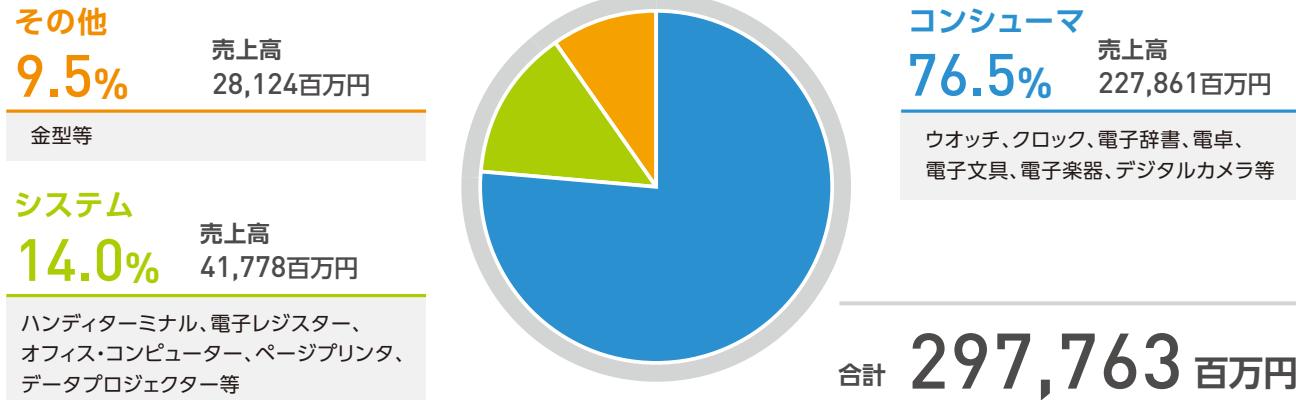
### 業績ハイライト

科目	連結会計年度	
	2012年度	2011年度
経営成績		
売上高	(百万円)	<b>297,763</b>
		301,660
営業利益	(百万円)	<b>20,053</b>
		9,065
経常利益	(百万円)	<b>19,702</b>
		6,980
当期純利益	(百万円)	<b>11,876</b>
		2,556
1株当たり当期純利益 (円)		<b>44.17</b>
		9.51

### 売上高の地域別構成比



## 売上高のセグメント別構成比



## 次期(2013年度)の業績見通し

国内景気は最悪期を脱して緩やかな回復の継続を期待できる状況となっていました。このような中で、当社は独自技術を活かした製品の積極的な世界展開を推進し、業績の大幅向上を目指します。主な施策は以下の通りです。

①時計事業は、世界的なブランド戦略を強化し、さらなる事業拡大と高収益性の維持を図ります。30周年を迎える「G-SHOCK」をはじめ「Baby-G」「EDIFICE」「OCEANUS」「PRO TREK」「SHEEN」といった6ブランドを中心に、ラインアップを充実させ、世界市場における積極的なプロモーションを展開し、高付加価値化を図ります。

②電子辞書事業は、国内市場においては、小学生向け市場の拡大を図り、引き続きナンバーワンシェア維持と高収益性の維持を図ります。また、海外市場においては、中国に加え、ASEANでの開拓を行い、事業拡大を図ります。

③システム事業は、法人向けタブレット端末「Paper Writer」などの独創的な製品を顧客ニーズに応じて提供することにより、収益性の改善を図ります。

④海外販売体制の強化により、新興国などの海外市場で販売拡大を図ります。

なお、新規事業は、「カシオサイネージ事業」の本格展開、「デジタル絵画事業」の早期事業化、「リスト端末事業」の開発を進めます。

### 2013年度業績見通し(連結)

売上高	3,200億円	(前期比 +7.5%)
営業利益	250億円	(前期比 +24.7%)
経常利益	230億円	(前期比 +16.7%)
当期純利益	130億円	(前期比 +9.5%)